リレー選手権の部優勝チームコメント

信じる力

リレー選手権の部(WE)優勝
筑波大学・伊藤恭子

今年一年間、筑波大学女子チームは、団体戦優勝候補として注目されていました。実際、個々の実力はレベルが高かったので、優勝は十分可能だと思いました。しかし、そう簡単にはいかないことはよく分かっていたし、インカレ団体戦で優勝することには、単純な力の足し算の結果ではなく、特別な意味があると感じていました。　昨年の山口インカレ団体戦の優勝はそのことをあらためて考えるきっかけとなりました。
「チーム」って何か、「エリート」ってなんなのか。

今年は塩田と上松がよく引っ張ってくれたお陰もあり、チームの雰囲気も良く、活動的で、いい状態でインカレを迎えることができたと思います。
私自身は団体戦を、個人としてではなく、「筑波大学の代表」として走りたいと思っていました。そして多くの時間を愛好会のみんなと過ごしたいと。その日々が、私にとって素晴らしい時間だったと思います。
事前のミーティングにおいては、周りのチーム云々よりも、自らの役割を果たし、またどうしたら自分達の力を発揮することができるかを考えていました。私達の努力はどのチームにも負けていない。そして互いを信頼し、認め合う気持ち、もちろん実力も。だから自信を持っていたし、不安は感じなかった。団体戦前日、「団体戦となるとなんかわくわくするんですよね」といった上松の言葉に、確かに団体戦となると力が涌いてくる自分に気付きました。
私は個人戦でいいレースができず、更に失格となってしまったのですが、今までやってきたことは間違っていないと思っていたし、大体の原因が分かっていたので、それほどの後遺症もなく、ただ自分のレースをすることに徹しようと思いました。なによりもみんながたくさんの力を私にくれました。
仲間を信じること、自分の力を信じること。”信じる力”というものが、私を支えていました。

１走の塩田、２走の上松の両者がきちんとぶっちぎって帰ってくる辺り、本当に凄い奴らだと尊敬してしまいます。私のレース内容は、ミスもありましたが、最後まで積極的な走りができ、満足しています。
上松をタッチゾーンで迎える緊張感、そしてラスポをパンチして皆の歓声を全身で受け、旗をもった二人が見えた瞬間の心の底から涌き上がった熱い衝動を、私は決して忘れることはないでしょう。
一年間、様々な形で応援してくださった方々、ＯＢ．ＯＧの皆さん、そしてたくさんの力をくれた愛好会のみんな、常に素晴らしいアドバイスを与えてくださったオフィシャルの小暮さん、最強のチームメイトである塩田と上松に感謝します。本当にありがとうございました。